

≡ 83年政治決戦突入の戦闘宣言の場としよう ≡

1.14 団結旗ひき 結集しよう

「猛進! '83



日刊 動労千葉

83. 1. 7
No. 1235

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)・(公衆)品三三二七二〇七

動労千葉は一月十四日、中江選挙勝利にむけて一大旋風を巻き起こしている船橋市において、「八三年動労千葉団結旗開き」を開催します。全組合員の圧倒的参加をかちとり、八三政治決戦に突入する動労千葉の戦闘宣言の場としようではありませんか。

超反動中曾根内閣を打倒しよう

昨年十一月二六日に発足した超反動中曾根内閣は、「前評判」どおり即日、軍拡、改憲、行革、増税、とりわけ国鉄再建監理委員会設置法案強行を公言しました。

これは、日帝の屋台骨を土台から揺さぶる体制的危機を軍事大国化・改憲、反対勢力一掃の侵略戦争政策によって突破するとともに、戦後的「支配体制」をみずからとりはらい、一変させることで日帝の永年の野望を実現しようとする攻撃であります。

とりわけ臨調基本答申は、国鉄の「民営・分割」を打ち出し、政府・国鉄当局はそれをドウ喝材料としながら、緊急十一項目「実施を強行し、国鉄労働運動解体にむけた攻撃を激化させてきています。すでに「無料乗車証」をはじめとするかけがえない権利・慣行を奪いとったばかりか、「仲裁未実施」や手当のカットにより生活破壊的状况においこんでいます。

「反合・三里塚」路線のもと

反撃に決起しよう

こうした反動攻撃が、ますます強まることは明らかです。われわれは、座して死をまつわけにはいきません。二度と戦争への道を歩むことはできません。これ以上、国鉄労働運動破壊攻撃を許すわけにはいかないのです。

わが動労千葉は、昨年九月末の第七回定期大会、十二月の第五回定期委員会において、日帝・国鉄当局の全面攻撃と真正面から対決し、三里塚・国鉄を基軸に一大反撃に決起することを決定し、全国鉄労働者に決起をよびかけてきました。

動労千葉を先頭とする闘いは、ついに「五七・一一」をめぐる国労二五万の決起を生み出し、臨調・国鉄当局・動労「本部」革マル連合への反撃を開始する大きな展望を切り拓きました。

これこそが「八〇年代に通用する自前の労働運動」路線のもと、五日間にわたる八三・三ジェットストを闘い、政府・権力、国鉄当局、動労「本部」革マルの三位一体の攻撃を打ち破って前進し

てきた成果であります。八三年も断固として、この路線のもとに進もうではありませんか。今こそ「反合・三里塚を闘う労働運動」路線の真価を発揮しなければなりません。

一・一四船橋へ集まろう

動労千葉は、秋年闘争の高揚をうけつぎ、八三年政治決戦に勇躍決起し、超反動中曾根内閣打倒をかかげ、断固として闘う決意を明らかにします。一・一四団結旗開きを突破口に、目前の検修下回り合理化を全力で闘い抜き、三・二七三里塚全国総決起集会の空前の成功をバネに、二期着工粉碎を八三春闘と結合させて闘うとともに、中江選挙闘争勝利と、動労千葉の運動を地域に拡大し、市民運動をつくり出す闘いを一三〇〇名、一人ひとりが活動家になる決意のもとに闘い抜こうではありませんか。

一月十四日「団結旗開き」の成功をかちとろう。

日時 一月十四日(金) 13時~17時
会場 三田浜楽園ホテル

(第一部) 十三時~

- ・主催者あいさつ 関川委員長
- ・基調報告 中野書記長

(第二部) 十四時三〇分~

- ・各界からの連帯のあいさつ
- ・アトラクション
- ・ロックバンド
- ・各支部対抗カラオケ合戦

